

名古屋と 木曽川

——上下流連携を考える

2016.6.18 (Sat)

名古屋市立大学桜山キャンパス内
サクラサイドテラス (イタリアンレストラン)
地下鉄桜通線桜山駅下車3番出口より徒歩2分

14:00-16:30

山登由紀子

木祖村による上下流交流のこれまでとこれから

井手英秋

木祖村の魅力と下流域との関係

——地域おこし協力隊活動を通じての発見

岡本秀範

御嵩と木曽川流域圏

岡本隆子

産廃問題後の御嵩町——亜炭・リニア残土問題を中心として

16:45-18:45 交流会

定員：40名 (先着順)

申込：region@hum.nagoya-cu.ac.jp

参加費：500円 (喫茶代, 交流会費は別途3000円予定)

岡本秀範(おかもと・ひでのり)

1950年、三重県生まれ。外国雑誌輸入会社勤務、名古屋市内の専門学校教員を経て現在、大学非常勤講師。専門は、医学英語および言語学。「みたけ産廃を考える会」に参加後、柳川元町長により新設された御嵩町環境審議会会長(2003-2013)をつとめる。

岡本隆子(おかもと・たかこ)

御嵩町に産廃建設計画が具体化した1997年、「みたけ産廃を考える会」の立ち上げに関わる。「みたけ・500万人の木曾川水トラスト」などにも参加。1999年より御嵩町議会議員。御嵩町における亜炭廃坑の陥没問題にも取り組み、2014年に岐阜大学大学院地域科学研究科修了、修士(地域科学)。

第4回「地域づくり」セミナー趣旨

名古屋の水源地は、木曾川に頼っている。しかし、そのことはあまり知られておらず、上流・中流・下流の関係が見えにくい。そこで、今回のセミナーでは長野県木祖村(きそむら)と岐阜県御嵩町(みたけちよつ)を中心として、「流域圏」の観点から、地域活性化について考えたい。

当日は、さまざまな立場から木曾川流域に関わってきた方々、関心をお持ちの一般の方々、研究者、院生・学生、行政の方々など、自由に議論・交流する場といたします。ふるってご参加ください！

御嵩

山登由紀子 (やまと・ゆきこ)

2003年、信州大学人文学部在学中にキャンプ活動で木祖村と出会う。2008年、名古屋大学大学院国際開発研究科国際開発専攻(農村地域開発)を修了し、修士(国際開発学)取得。旅行会社社員を経て、2012年より長野県木祖村名古屋出張所駐在員。名古屋圏における上下流交流事業の運営を切り盛りしている。

木祖

井手英秋(いで・ひであき)

福岡県生まれ、大分大学工学部卒業。住宅会社で設計業務に15年間携わり、その後8年間、飲食業に従事・経営。2011年に仕事で長野県に移住。長野の圧倒的な自然に魅せられ、永住を考えていた矢先に「地域おこし協力隊」の制度を知る。2014年から木祖村に移住、「水の絆協力隊」として木祖村観光協会に所属し、木祖村の観光PRをメインとして活動。